

痛みが少なく回復が早いCVP、PVP、HoLEPによる患者に優しい低侵襲治療

「前立腺肥大症のレーザー治療」特集

前立腺は男性だけにある臓器で、加齢などの要因でそれが大きくなるのが前立腺肥大症です。

かつては下腹部を切開する外科手術が行われていましたが、近年はレーザーを使用する内視鏡手術が普及。出血が少なく、高齢者でも可能など、様々なメリットがあります。

HoLEP、PVP、CVPいずれも術後の痛みは少なく勃起障害もほとんどなく、射精機能も残ります。手術以外にも薬で症状を抑える内科的治療もあります。

症例実績があり、専門性の高い施設もありますので、悲観することなくポジティブに治療に望んで医師へ相談して欲しいと思います。



かとう腎・泌尿器科クリニック

〒254-0065 神奈川県平塚市南原2-1-2 TEL 0463-30-0415 <http://www.kato-urc.com>

神奈川県

前立腺肥大症の日帰りレーザー手術を実施し全国から患者が来院

神奈川県平塚市にある、かとう腎・泌尿器科クリニックでは、HoLEP（ホーレット）とCVPという2種類のレーザー装置を備え、日帰りで前立腺肥大症の手術を行っている。HoLEPは今までに約1500症例、CVPは約150症例を実施。HoLEPは日本で最初に導入している。関東はもとより、全国から来院者が集う。

同院を2013年に開業した加藤忍院長は、日本でも早い時期から前立腺肥大症のレーザー手術に取り組んできた一人だ。

加藤院長は「HoLEPは10年以上の症例成績があるので、これまでのデータに基づいて比較的若い世代の方に実施しています。前立腺を蒸散させるCVPは出血のリスクがほとんどないため、心臓病や脳梗塞などを防ぐために血液をサラサラにする薬を服用している方でも手術が可能です。患者さんの状



院長 **加藤 忍**
1991年藤田保健衛生大学医学部卒業。2013年にかとう腎・泌尿器科クリニックを開院。日本泌尿器科学会認定泌尿器科専門医、日本泌尿器科学会オフィスウロロジー部門副部長、CVPフォーラム世話人など、学会での論文発表も多数。

態を考慮して、2種類のレーザーのどちらを使うか患者さんに詳しく説明しよく理解していただくから決定しています」と話す。前立腺肥大症を治療する2種類のレーザーを持つクリニックは全国でも数少なく最良の医療を提供し続けている加藤院長のポリシーがよくわかる。

日帰り手術は1時間程度で終了するが、患者が完全に安定したことを確認してから帰宅させる。同院では麻酔科医が常勤。常に安全性を確保しながら、無理のない治療を行っている。

「患者を自分の家族と思っ「治療する」をモットーにしている加藤院長。CVPでも、肥大した前立腺すべてを蒸散させずに、組織を摘出してがんの検査が可能な方法を考案し、常に研鑽を欠かさない。また、手術の際は、緊急にも対応できるように万全を期しているだけでなく、手術後をフォローするためインターネットを活用した遠隔診療も実施している。

患者目線に立ち最良の治療を追求する医療従事者であり続けたいと、加藤院長は語る。